

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103183		
法人名	株式会社 朋久		
事業所名	さくら園 紀伊風土記の丘		
所在地	和歌山県和歌山市岩瀬1399-1		
自己評価作成日	平成22年11月	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103183&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、県指定公園に隣接し、四季折々の景観と共に豊かな生活が過ごせるよう工夫・配慮を重ねています。
 理念の「いつもそばにいるよ」を謳い、利用者が安心して住み続けられるように日々工夫・努力しています。利用者には出来るだけ役割を担って頂けるように配慮し、朝の掃除は皆で出来るように支援しています。また、梅干し作りやぬか漬けをするなど、職員・利用者の知恵を出し合った生活をしています。また、地元自治会との交流や年3回家族会を開催し、利用者の日常を写真に撮り家族に知ってもらうとともに、地元、家族の絆がいつまでも続くように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県指定公園紀伊風土記の丘に隣接している当該ホームは、シルバーマンションと併設され春にはさくら、秋にはもみじと四季折々の素晴らしい自然環境の中で豊かな生活を送られています。「愛情もって根気よく、いつもそばにいるよ」を理念に掲げ、利用者一人ひとりを大切にゆったりとした関わりの中で寄り添い、利用者の立場に立って考え利用者本位のケアに取り組んでいます。また地域との協力体制や連携も取れており、積極的に地域行事に参加しています。ホームで行われるボランティアを招いてのコンサートの開催や花植え、ホテルを借りての食事会など地域と共に楽しい暮らしの実現に取り組んでいます。また年数を重ねる事で少しずつ利用者も重度化してきましたが、夜勤体制を職員2人にする等安心して取り組めるように力を合わせ支援しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所として「いつもそばにいるよ」と掲げ、利用者の思いに寄り添う事をホーム理念として、職員の意見を基に、地域でその人らしくとの思いが込められ作られている。	職員が利用者の心に寄り添い地域の方もいつもそばにいて暮らしていけるように「愛情もって根気よく、いつもそばにいるよ」を開設時に職員で話し合い作られた。地域の中で関わりを大切に安心した生活が出来るように話し合いケアに活かし実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事に参加している。夏場の溝掃除には職員が地域の方々と力を出し合い、風土記の丘で行われる古代楽器の演奏会やコンサートを聞きに出かけている。また、ボランティアの好意で行われるホームでのミニコンサートには地域の文化センターにピラを置かせて頂き、近隣への呼びかけを行い地域交流を進めている。	自治会に加入している。地域行事に参加しホームで行われるコンサート等に声かけし参加がある。理解を得られない場合もあるが相手の立場に立ち、地域の方々と協力しながら繋がりを大切にしている。今後は保育園の子供たちとの日常的なふれあいを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無料相談窓口(ほっと！安心介護相談所)を作り、暮らしの相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者や民生委員、婦人会の方、弁護士、地域ボランティア等、見識者やボランティアなどが参加し2ヶ月に一度運営推進会議は行っている。ホームの状況や取り組みなどの報告を行うとともに、意見やアドバイスをいただいている。	家族や市の職員、自治会副会長、社会福祉協議会職員等が参加する運営推進会議を2カ月に1度開催している。ホーム便りや写真を見ながら利用者状況やスプリンクラーの設置、感染症対策等、議題を決め話し合いホームで取り組んだことを報告している。	ホームの状況報告が主になっているため、家族の疑問点や知りたい事等を事前に聞きながら議題にしたり、参加者からの意見を聞ける場となるように検討されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の窓口とは気軽に相談できる関係にある。市の介護関連の行事にも積極的に関わり、連携を取っている。	事務長がホームの窓口となり、月に3~4回は市の担当者を訪問し相談等をしている。市の担当者とは顔なじみで信頼関係もあり、積極的に関わり協力体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行わず、出かけたいそぶりの利用者を見ると職員は同行したり、声を掛け話し合うなど対応している。職員は鍵を掛ける事の弊害に対する理解を持っており、出来るだけ利用者の意向に沿うように努めている。ただし、本人や家族の承認を得て、車いすの安全ベルトのみ使用している利用者がいる。	ホームが2階にあることから入口はセンサー対応にしている。家族には見学時等に現状を説明し理解を得ている。利用者の言動、表情を観察し一緒に外出するよう支援している。身体拘束については気付きや疑問点などを話し合い、身体拘束をする時には再度職員で話し合い家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については毎月のカンファレンスの時に繰り返し研修している。毎日の利用者の様子を記録に残し、虐待防止に努めている。		

さくら園 紀伊風土記の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成18年より和歌山県人権尊重の社会づくり協定を結ぶ。 関係機関からの資料を参考に、職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけてゆっくり説明している。 具体的に細部にわたって説明し、理解を得て、納得してもらっている。 気軽に気持ちよく、ご質問していただけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や不満を聞くようにしている。年3回家族会を行っており、食卓を囲みながら家族からの意見や要望を聞く機会としている。出された意見に対しては出来るだけ即答できるようにし、職員間で検討し共有している。	家族の来訪時や年3回の行事を兼ねた家族会で、希望や要望がないか聞いている。意見等があればその都度改善策を伝え、医療に関してなどの意見があれば関係者と話し合い改善策を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員で話し合い改善に繋がるよう提案・検討している	月1回のミーティングや朝夕の申し送り時、休憩時間等少しでも時間があれば、意見や提案がないか問いかけ話し合いの場を設けている。決まったことは申し送りノートで職員は情報を共有している。管理者と職員は和気あいあいとした信頼関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士やケアマネージャー等の資格をとれるよう働きかけ、前向きに努力してもらっている。 職員が資格取得のためには、勤務体制も工夫し、職場で応援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を職員に知らせ、希望者を募って参加している。また職員の参加を促し派遣する場合もある。 毎月のミーティングでは実技を含めた研修を多くの資格を有する管理者が講師となり行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に参加し情報交換や交流を行っている。知り合いのグループホームとも見学や職員の交流などを行うこともあり、ホームの良さを再確認する機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人面談で利用者や家族の思いを聞き取り、記入を行っている。困難な場合には日々の会話やしぐさなどで利用者の思いを引き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には来訪時に意見を聞き、出来る出来ないシートを基に利用者の思いに沿ったケアプランに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面は週2回の往診あり。 歯科医、耳鼻科も往診あり。 薬の配達あり、。職員が管理している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の掃除は、入居者の出来ることを中心に全員で行うようにしており、日々の雑事を職員と共にやっている。 梅を漬けたりウッドデッキの園芸の水やりなど入居者の知識から学ぶことも多く、対話を重ねながら支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の思い違いの無いように細かく配慮している。 面会に来られない家族とは電話やハガキで状況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用の開始は即入居とされる利用者が多く、また一階のシルバーマンションからの移動の場合も多く、既に馴染みの関わりの場合もある。馴染みにくい利用者には入居後の数日は細かな配慮を行い対応している。	知人や友人がホームに訪ねに来てくれたり、電話や手紙のやり取りを支援している。家族や友人からの電話は子機を使用しゆっくり話ができるようしている。昔からの行きつけの美容院に職員と出かけ、墓参りは家族と一緒に出かけられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の争いもなく、仲よしである。 ボスを作らぬよう気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院につき退所扱いになっても、退院後のサービス利用の相談に乗っている。 退院後、介助付きマンション等を紹介し、ケアマネージャー等への連絡も密に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人面談で利用者や家族の思いを聞き取り、記入を行っている。困難な場合には日々の会話やしぐさなどで利用者の思いを引き出すようにしている。	入居前に見学に来てもらい、利用者や家族と面談を行い多くの希望や意向を聞いている。今まで使っていたサービス事業者等の情報も得ながらアセスメントを行い、これまでの生活や意向を把握できるようにしている。また一緒に生活する中で表情や行動から思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活内容を家族や友人から聞く。以前のサービス利用票等を見せてもらっている。 今まで利用している医療関係の情報については関係者と相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の生活パターンをきちんと把握しており、自由に過ごせるよう援助している。 徘徊と異食癖の利用者について、落ち着いてもらえるよう職員一同協力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る出来ないシートをもとに、一人ひとりの思いに沿って介護計画が作成され、来訪時の家族の思いや、職員の意見も反映し作成している。	アセスメントをもとに利用者や家族の思いに沿った介護計画を作成している。3か月毎に全職員の意見を取り入れたモニタリングやカンファレンスを行い、見直しを行っている。カンファレンスには家族の参加はないが、開催後は見直した結果を家族に報告し同意を得ている。また必要があれば医師や看護師の意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日録、日報等の記録を役立てている。 毎朝の申し送りにおいて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理美容院への送迎や、洋服など個別の要望に沿った買い物の同行など利用者の要望に応じて支援している。		

さくら園 紀伊風土記の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、インターンシップ、近隣農家から野菜や果物のプレゼントあり。 警察、消防、民生委員、教育機関(高等学校)の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の希望を聞いているが、ホームの協力医療機関の24時間対応などもあり、ほぼ全員が協力医療機関での受診となっている。医師との連携は24時間いつでも対応頂ける関係にあり安心の医療体制となっている。必要に応じて訪看の利用もしている。	入居前にホームの協力医と24時間連携が取れ、緊急時や月2回の往診がある事を家族に伝え、同意を得てほとんどの利用者がが協力医に変更している。必要に応じて歯科や耳鼻科の往診、訪問看護を受けることが可能で、職員に歯科衛生士がおり日常の口腔の衛生管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	認知症対応の資格のある看護師が利用者の状態を把握している。 職員からの電話での相談も受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、面会に行き、退院後の相談や洗濯物も引き受けている。 随時、家族や病院関係との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療の常時必要とならない限り看取りの対応は可能と考えており、契約時に家族にも伝えている。本人・家族の意向を尊重し、対応、支援している。医療処置も必要な場合もあるので、状況に応じて体制を整えるように努力している。 終末期になった場合、医師や家族と相談し、出来るだけホームで過ごしていただけるよう努力するが、医師の指導により入院となることがある。	重度化や終末期の対応については契約時にホームの方針を家族に伝え、同意をもらっている。その時の状況、変化に応じて医師や家族、職員、訪問看護師と何度も話し合いを重ね、家族の意向を尊重できるよう支援している。また夜勤は職員2人体制で行い、管理者にも何かあればすぐに連絡が取れる事で安心して取り組めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料を作成し、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度は避難訓練を行い、夜間の心構えについては常に職員に伝えている。運営推進会議では非常時備蓄の話が出るなど関心をもっており、近隣へ協力依頼をしている。	年1回、消防署立ち会いのもと出火場所を決めて避難訓練や消火器の使い方等を行い、指示やアドバイスを頂いている。運営推進会議で議題にして地域への協力をお願いしている。	ホーム近隣には住宅も多くあり、地域交流もある事で避難訓練をする前に地域の方に声かけし、一緒に避難訓練をさせてはどうかでしょうか。また何かあればホームで出来る事を地域の方にも伝えられ話し合う機会を持たれてはどうかでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには常に注意し、人権の立場からプライバシーや言葉の意味を絶えず喚起し誇りを損なわない姿勢を保つようにしている。万が一不適切な言動がある場合は職員や利用者同士においてもすかさず間に入って話をするようにしている。	利用者との信頼関係をもとに日常的に方言等を使いながら、コミュニケーションを多く取るようにしている。気長に話を聞き、優しさをもって利用者の立場に立った対応を心がけている。また利用者の希望に応じて同姓介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴、散歩、レク等についても、ゆっくりと意思表示ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な起床から生活が始まるが、早すぎて朝食を食べた事を忘れられる方などもあり、声かけを工夫する場合もある。ゲームや歌などのレクリエーションの希望を募り行っており、楽しそうな声につられて参加者が増える事もある。昼寝を楽しむ利用者も多く、昼食後の一時に畳コーナーで布団を敷いたり、居室で読書を楽しんでおられたり、自由な生活が営まれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者が園に来てくれる理容師を利用しているが、デパートの美容室へ行く人もあり、援助している。ボランティアの美顔エステも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、利用者のできる事にかかわって頂いており、下ごしらえや調理、下膳と利用者は職員とともにいき、夏場はぬか漬けを役割にしている利用者もおられた。食事は職員も同じテーブルで会話を楽しみつつ食べている。	管理者の友人の管理栄養士に献立を立ててもらい、利用者の希望や新鮮な野菜や米が届いた時には献立を変更している。年数を重ねる事で一緒に調理することは難しくなってきましたが、食器洗いや後片付け等を一緒にしている。職員も利用者と一緒に同じテーブルに着き同じ物を頂いている。また晩酌を楽しみにされている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、出来るだけ多く水分補給が出来るようにカウンターにお茶を常設するようにしている。 体調により粥にしたり、刻み食にするなどの対応が可能であり、分量調節なども行っている。時々知り合いの栄養士に献立を見てもらいアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に応じた口腔ケア用具を使用して口腔ケアをしている。 歯ブラシの使用出来ない利用者は職員が口腔ケアを行っている。職員に歯科衛生士がおり、口腔ケアの個別指導を行っている。		

さくら園 紀伊風土記の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレ誘導をし、おむつはずしに取り組んでいる。 昼、夜のおむつの種類を変えて使用している。	排泄表を利用しながら個々のパターンに合った声かけや誘導をしている。夜間は身体状況に応じておむつを使用している方もいるが、日中は紙パンツを使用し、トイレで排泄が出来るように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、記録を行い、便秘対策に取り組んでいる。水分補給には特に気配りをしている。 便秘のきつい場合は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前午後、就寝前の入浴それぞれの希望に沿って支援をしている。入浴拒否の人にもタイミングを見て入浴につなげ、週に3回をめぐりに支援を行っている。	1階シルバーマンションの一般浴とリフト浴を使用している。一人ひとりの希望に沿って週3回位入浴を支援している。またシャワー浴は毎日対応可能である。拒否傾向の利用者には楽しみを持ってもらえるよう工夫し、季節に応じて山で採れた柚子やよもぎ、菖蒲等を使い入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡したい利用者についての支援も十分行っている。 夏、冬の居室の温度調節も細かく管理している。また、各居室には温度計を設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師からそのたびに説明を受け、全職員に伝えている。 定期投薬、臨時投薬、および薬の保管については徹底して管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝には利用者と職員が共に清掃を行うことにしている。居室や手すりなど出来る事をするようにし、役割を担って頂いている。多くのボランティアの協力があり、謡曲のお稽古や、ギターで民謡を楽しみ、音楽の先生の音頭で大合唱になったりと楽しみ事がたくさんある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの喫茶店に出かけたり、ホームの前から続く紀伊風土記の丘を散歩している。外に出れない時には、一階のウッドデッキで園芸の水やりやイチゴの世話などで外気浴を楽しんでる。	ホーム前でお茶を楽しめるように場をセッティングし、民謡などを聞きながら外気浴を行い、車椅子の利用者も一緒に楽しんでいる。その時の希望に応じてホーム前の遊歩道に続く紀伊風土記の丘まで散歩や喫茶店等に出かけている。	

さくら園 紀伊風土記の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額は本人が持っている。 買い物や喫茶の時、金銭管理のできる人にはしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取り次ぎや手紙は渡している。 電話をしたいと希望した場合は、家族に電話をかけて本人に取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの窓からも自然の景色が目に飛び込む環境で、表には紀伊風土記の丘への遊歩道、裏には池の堤があり、夏には葛の花が香り虫が飛び交い季節感に溢れる環境にある。リビングには置のコーナーがあり、何人かで枕を並べて休まれる時もある。また金魚やウーパールーパーが水槽で飼われ、利用者の行事参加の写真がたくさん飾られ、和みの空間となっている。	リビングが広く畳コーナーには、ホットカーペットが敷かれ昼食後、利用者の方が気持ちよく昼寝され、食事を作る風景や匂いが漂い、生活感あふれる落ち着いた空間が作られている。金魚やウーパールーパーを飼い利用者が餌をやったり、花を活け、写真や季節の飾り付けをして、皆が集まる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にも廊下の横等にソファを置いている。 ソファに動物の人形を置いて楽しく過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けられていたり、使い慣れた家具に囲まれておられたり、仏壇を持参され日々水を替えられている等、居心地の良い居室作りがなされている。	ホームからはベッドが用意され、サイドボードや時計、大切にされていた一面鏡や仏壇、思い出の写真を持ってきてもらい、昔を振り返れるように家族と相談しながら配置している。利用者一人ひとりに合わせた居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインを取り入れて、廊下、トイレ、各室の手すり、テーブルの高さも3段階に分けている。また、部屋の電灯は、昔ながらの方法を採用し、スイッチではなく、紐で引っ張ってつけたり消したりできるようにしている		